



第47期クラブテーマ

地域社会と共に！ ～輝け オンリーワン～

第2182回**令和7年1月22日（水）****第47期 2024.7～2025.6**

会長：山下 誠

副会長：羽士 洋司

幹事：石徹白秀也

例会日：毎週水曜日 18:30 (6月～9月末 19:00)

例会場及び事務所：白鳥町農業指導センター 2F

TEL: 0575-82-3822 FAX: 0575-82-5191

E-mail:gsc@abelia.ocn.ne.jp 発行：クラブ会報委員会



1月 正月

本日の行事**新年互礼会（会員卓話；新年を迎えて）**

2024～25 年度

山下 誠会長

創立 35 周年記念式典祝賀会について

本日のお客様

3月 15 日（土）志摩市 宝生苑 詳

加賀中央 RC 会長 徳田 満様

細は今月末に連絡あり

幹事報告

石徹白秀也幹事

* 例会変更 関中央 RC

* 志摩 RC より

第2181例会報告**■会長挨拶****2024～25 年度 山下誠会長**

新年あけましておめでとうございます。

先週は誠に申し訳ありませんでした。警報がでておりましたので、幹事と相談したのですが、警報が出た時は休会が適切ではないかと決めさせていただきました。

正月早々という事で自分も張り切っていましたが、皆さんの安全を考えて休会とさせていただきました。

相撲の初場所をみていて、私は小兵力士を応援しているのですが、琴桜とか若い衆が頑張ってくれるのは嬉しい事ですが、今の角界を見ていると心配しております。

日本のお家芸の相撲ではありますが、横綱や大関は外国力士が多く、時代と共に変化していくのは仕方ないですが、大鵬の時代を知っている者としては少し寂しい気もします。

今日は1月15日ですが、いまだに自分は成人の日だと思ってしまいます。今は第2月曜日と定められ、3連休にしたという事は今の時代に必要な判断だと思います。

ではロータリークラブはそうではないか、若い人達に合わせた運営を目指していかなければいけないのではないか。私は変えていいってもいいのではないかと思います。若い人がロータリークラブは古い体質だと、言われてもそれはそれで必要な事ではありますが、今期も半分過ぎました。私と幹事で半分済んだと慰め合ったのですが、あと半期の中で、次の期の役員に宿題を残して、変える事は出来ないという事を幹事と話しました。当クラブは月4回開催しますが、色々言われます。皆さんの英断で変えていいのではと思います。

皆さんで考えていただいて、半期頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

■卓話者ご紹介**各務原ロータリークラブ 松井雅史様**

本日は卓話の機会を作っていただき、ありがとうございます。直前会長の松井です。

各務原RCからグローバル補助金を使った奨学生として、三代景湖さんがオーストラリアのクイーンズランド大学の医学部に留学しています。三代さんは各務原市出身で、親の仕事の関係で3歳からオーストラリアに亘り、そのままオーストラリアで育っているため、日本語が苦手だそうです。医学部に入るわけですが、彼女は高校でビオラで主席を取り、それに対しての奨学金をもらい高校を出ています。高校の時に色々な研究活動をしながら賞をもらったりして奨学金をもらって医学部を出ています。僕も医者ですが、医学部の中でもそこまで一生懸命自分でお金を工面している学生は日本にはいなくて、現在でも頑張っているといい学生が各務原から出ているのは誇りでもあります。皆様に知っていただきたく、紹介するに至りました。かなりマニアックな話も出てくるかと思いますが、よろしくお願ひします。



■外来卓話「グローバル補助金奨学生としての活動」 グローバル補助金奨学生 三代景湖様

初めまして、三代景湖と申します。よろしくお願いします。私は現在ロータリーのグローバル補助金と光通信の重田財団から大きなサポートをいただき、オーストラリアで勉強しています。

私が今勉強をしているのは、オーストラリアのクイーンズランド大学医学部です。日本の大学と違うのは、学校にもよりますがオーストラリアの大学は7~8年かけて卒業します。私はここで医学部の勉強明けでなく研究にも力を入れています。

私の略歴を紹介します。私は3歳からオーストラリアで育ちました。中

学・高校はサマービルハウスという私立の女子高に通いました。卒業時には、この学校の名誉賞をいただきました。

ここは音楽で有名な学校だったという事もあり、私は学力とビオラ演奏で奨学金をもらいました。オーストラリアの国会議事堂で演奏したこともありました。高校卒業後は、そのままクイーンズランド大学の医学部に入ったわけですが、コロナが始まったこともあり、私は日本に帰国し、二つの大学に同時に所属することが出来ました。クイーンズランド大学の医学部と京都大学の医学部大学院です。それが両方の大学での研究に繋がっていき、京都大学の方ではIPS細胞の研究所で1年研究させてもらいました。

クイーンズランド大学の学資過程で、私はいくつかの研究や論文の発表等、活動を広げることが出来ました。他には2021年にオーストラリアの代表として参加した世界大会で1位を取りました。

同時進行で、私は京都大学大学院において、取れるだけカリキュラムを取りながら研究に入っていくわけですが、2023年京都大学のIPS細胞研究所の、特に遺伝子編集の研究室に所属することになりました。ここは世界中から研究者が集まっていたので、私は主に英語で話していました。

中山先生にお会いし、先生から励ましのお言葉をいただき、とても刺激を受けました。

非結核性抗菌症というのが私の研究になって、現在に繋がっています。日本でもとても身近な病気です。結核より大きく上回って増加しています。この病気の診断の治療は簡単ではなく、人から人の汗腺がないと思ったものが、最近では人から感染するという株も見つかっています。ただこの治療薬はなく、あっても毒性が強いのが問題です。

今ニュースになっているブルーリ潰瘍をご存じですか。これはオーストラリアで広がっていて、日本にもある感染症ですが、これも非結核性抗酸菌に属する一部のバクテリアによって引き起こされます。ただこれは肺の感染症ではなく、肉食バクテリアと言われているもので、早期発見をしないと、身体が壊死していく為、危険です。

ここでまた非結核性抗酸菌症という呼吸器疾患の話に戻りますが、私の研究は肺疾患の事で、医師がこの病気をどのタイミングで、どう治療するかという判断をするために、非結核性抗酸菌症スコアリングシステムという基準を作りました。はっきりいうと、スコアリングシステムは簡単な要因を通して死亡率を予測するものです。先ほども言ったようにとても毒性の強い治療薬しかない事と、進行の遅い病気であるために、専門医でない一般のお医者さんでは一番効果的な治療の開始時期が分からぬのが現状です。ですからこの基準があれば適時に治療を開始し、専門医に会う事でも来るし、治療の必要がない患者には毒性の強い治療薬を使うこともなくなります。

私はこの研究成果を、2024年5月にアメリカのATSという国際呼吸器学会で発表しました。

私の研究論文は、世界的に影響力の大きい医学誌Chestに発表することが出来ました。

次にオーストラリアの医学部がどんな所かお話しします。日本の医学部とは違い、オーストラリアの医学部は通常7年から8年かかります。また内容が非常に濃く、授業は朝8時から始まり、夜10時に終わることもあり、時間が大変貴重になります。授業の為には最低2,3時間の準備が必要で、それがないと授業に出られません。さらに研究のための時間を確保するのは非常に困難です。大学、病院、研究所、自宅への移動にも時間が掛かりますが、通学時間を利用してリラックスするしかありません。

このように忙しいスケジュールの中、心と体の健康を維持することがとても重要になってきます。私のしていることは、通学時間を利用して音楽を聴いたり、考え方することです。他にはキャンパスの中を歩いたり、緑の多いキャンパスなので歩くのもリラックスになります。

オーストラリアの生活を紹介します。私はロータリーの方の家に住ませていただいているお陰で、安心した生活環境と、サポートネットワークがある事にとても感謝しています。

オーストラリアは食品を含めて生活費が世界で一番高い国です。例えば水の値段が日本では110円ですが、オーストラリアでは560円掛かります。基本水道水は飲めないので、水はいつも買うことになります。そして大学での学食は最低18\$くらい掛かります。1800円くらいで飲物を付けると2500円くらいになります。私の場合、外食はなるべく避け、自炊がマストとなります。週末



にバスで買い物に行き、日曜日に1週間分のランチを作っています。そして生活費の足しになるように、私は大学で公衆衛生学の講師の仕事もしています。自分の授業を抜け出して教えています。

2024年にどんな活動をしてきたか紹介します。

2024年5月にアメリカサンティエゴで、国際呼吸器学会で研究を発表しました。

8月にはオーストラリアとアジア圏の遺伝学の学会に奨学金を得て参加してきました。

11月には非結核性抗酸菌症の国際学会を、私の所属する研究室が主催しました。他にはいくつかの研究室を拝見するプログラムにも入れていただき、免疫に関する研究室や、パーキンソン病などの研究室に2,3ヶ月に亘り周りました。

そして8月には大学から僻地医療を体験する奨学金をいただいて、遠くまで行ってきました。私が済むブリスベンから飛行機で2時間、バスで6時間の所に行きました。大きな牧場で住ませてもらいました。アンガス牛を飼育していて10万頭以上の牛がいました。日本にも多く出荷されているそうです。ここは比較的小さな牧場です。またオーストラリアで有名な金の採掘場にも行きました。僻地の町に住む子供たちに、何かあった時に自分で対応できるように心臓マッサージを教えたり、焼けた肌を守ることなど教えました。オーストラリアの中にはアボリジニという先住民が済んでいます。彼らの健康や医療に対する取り組み方は大きく違います。先ほどの牧場経営や鉱物採掘はオーストラリアの大きな産業のひとつで、それらに携わる人はルーガルと呼ばれ、僻地に住んでいます。そしてそこに住むアボリジニ人の医療も含めて十分でない医療体制が問題になっています。

オーストラリアは非常に大きな国で、その大部分はルーガルやアウトバックと呼ばれる僻地です。メルボルンやシドニー、ブリスベンといった町は地図上ではほとんど見えません。僻地には病院がなく、最寄りの診療所まで100km以上離れているのがよくあります。脳卒中になった患者がどれだけ治療を受けられたかを見ると、都市では77%の患者が病院で治療を受けられたのに対して、僻地では3%しか手当てを受けることが出来ません。都市と僻地の医療格差を解消するために、ヘリコプターで都市の病院まで運びます。またオーストラリア政府は僻地で働く医者を増やすために、卒業後僻地だけで働くことを前提にして、比較的低いスコアで入学させたり、その学生は僻地医療に適した教育をさせたりします。日本でもオーストラリアでも僻地医療に関してはまだまだ改善することが沢山あります。

最期にIPS細胞の事を紹介したいと思います。IPS細胞の特徴は、身体のどんな細胞にもなれることです。私たちはみんな、最初PS細胞から始まっています。そこから心臓の細胞、脳の細胞や肌の細胞など、いろんな細胞になっていきます。ですがいったん特徴が付いた、例えば肌の細胞は元のPS細胞には戻れません。そこで山中先生は特徴が付いた肌の細胞を元のPS細胞の状態に戻す方法を4つの遺伝子を含むことで、その方法を見つけました。それによっていろんな細胞になれるIPS細胞を多くの病気の治療に使用する可能性があります。私の生涯の目的の一つもこれらのIPS細胞を呼吸器疾患の治療に、安全に使用することです。以上で終わりたいと思います。皆様、お聞きいただき、ありがとうございました。

■ニコBOX

ニコBOX委員会 大村太郎君

各務原RC松井雅史様 本日は卓話の機会を作つて下さり、ありがとうございます。松森直前会長、会いたかったです。

山下誠君 新年明けましておめでとうございます。

松森正和君 松井様、三代様、ようこそお越しくださいました。ありがとうございます。

大村太郎君 今年もよろしくお願ひします。お客様、雪国へご苦労様です。

石徹白秀也君 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。

藤代昇君(同文) 各務原RCの松井様、三代様、ようこそ歓迎致します。

(同文) 寺田澄男君、美谷添生君、和田良一君、美谷添里恵子君、畠中知昭君、佐藤備子君、山口里美君、清水英志君、鷺見啓兒君

吉村泰彦君(同文) 先週は体調を崩し、大変でした。

羽土洋司君 松井様、三代様ようこそ。卓話楽しみにしておりました。メンバーの皆さん、今年もよろしくお願ひします。あいにく今晚はお通夜があり、早退させていただきます。

杉山賢君 三代景湖さん、貴重なお話をありがとうございます。

■次週行事予定

1月29日 会員卓話(新年を迎えて)

2月5日 外来卓話(山本草太様)

■出席報告

出席委員会 鶩見啓兒君

	会員数	出席者	欠席者	補正者	出席率
2180回	31名	19名	12名		61.29%
2181回	31名	18名	13名		58.06%